

線形代数学 I — \mathbb{R}^2 上の線形変換

澁野 昌 (Sakaé Fuchino)

2015年05月21日

以下は 2015 年 5 月 14 日に行った平面上の線形変換に関する講義の講義録である。この講義の内容は教科書から離れた補足であったため、内容をここに書き出しておく。

$$\mathbb{R}^2 = \left\{ \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix} : u, v \in \mathbb{R} \right\}$$

だった。 \mathbb{R}^2 の要素である 2 次元列ベクトル $\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ は、 xy -平面上の点 (x, y) と同一視したり、 xy -平面上の原点から点 (x, y) に向けて伸びている長さや方向を持った矢印 — 平面ベクトル — と同一視することができて、この同一視で、平面の幾何学に関する議論 (の一部) が \mathbb{R}^2 のベクトルに関する議論に翻訳できる。同様に \mathbb{R}^3 の要素は、 xyz -空間の点あるいは空間ベクトルと同一視することができ、 \mathbb{R}^4 は時空の点あるいは 4 次元空間ベクトルと同一視できる。

φ が \mathbb{R}^2 から \mathbb{R}^2 への変換 (transformation) (写像 (mapping), 関数 (function) という名称も同じ意味で用いられる) であるとは、 φ が \mathbb{R}^2 の各ベクトル \mathbf{a} に対して、 \mathbb{R}^2 のベクトル $\varphi(\mathbf{a})$ を対応させるもの (しくみ, 規則など) であることである。

ex-0

例 0.1 (1) 回転 (rotation): 角度 θ に対し

$$(0.1) \quad \rho_\theta : \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2;$$

$\mathbf{a} \mapsto \rho_\theta(\mathbf{a}) =$ 平面ベクトルとしての \mathbf{a} を原点を中心に角度 θ だけ左回りに回転させて得られる平面ベクトル

(2) 平行移動 (translation) $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^2$ に対し、各ベクトル \mathbf{a} に対応する平面上の点に対し、この点を \mathbf{b} だけ平行移動したときに得られるベクトル $\mathbf{a} + \mathbf{b}$ を返す変換。

$$(0.2) \quad t_{\mathbf{b}} : \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2;$$

$\mathbf{a} \mapsto \mathbf{a} + \mathbf{b}$

変換 $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ が与えられたとき, 図形 $X \subseteq \mathbb{R}^2$ に対し, X の変換 φ による像 $\varphi[X] = \{\varphi(\mathbf{a}) : \mathbf{a} \in X\}$ を考えることができる. 例えば上の例では, $\rho_\theta[X]$ は図形 X を原点を中心に角度 θ だけ回転して得られる図形で, $t_b[X]$ は図形 X を \mathbf{b} だけ平行移動して得られる図形となっている.

A を 2×2 -行列とすると, 変換 $\varphi_A: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ を, $\mathbb{R}^2 \ni \mathbf{a} \mapsto A\mathbf{a} \in \mathbb{R}^2$ で定義する.

たとえば $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$, $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ のとき, $\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} au + bv \\ cu + dv \end{bmatrix}$ だから, $\varphi_A\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} au + bv \\ cu + dv \end{bmatrix}$ である.

行列の計算の基本法則を思い出すと, φ_A は, 任意の $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$ とスカラー $c \in \mathbb{R}$ に対し,

$$(0.3) \quad \varphi_A(\mathbf{a} + \mathbf{b}) = A(\mathbf{a} + \mathbf{b}) = A\mathbf{a} + A\mathbf{b} = \varphi_A(\mathbf{a}) + \varphi_A(\mathbf{b}) \quad \text{v-0}$$

$$(0.4) \quad \varphi_A(c\mathbf{a}) = A(c\mathbf{a}) = cA\mathbf{a} = c\varphi_A(\mathbf{a}) \quad \text{v-1}$$

である.

任意の \mathbb{R}^2 から \mathbb{R}^2 への変換 φ が (0.3), (0.4) に対応する性質: すべての $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2, c \in \mathbb{R}$ に対し,

$$(0.5) \quad \varphi(\mathbf{a} + \mathbf{b}) = \varphi(\mathbf{a}) + \varphi(\mathbf{b}) \quad \text{v-2}$$

$$(0.6) \quad \varphi(c\mathbf{a}) = c\varphi(\mathbf{a}) \quad \text{v-3}$$

を満たすとき, φ は線形変換 (または, 線型写像) であるという. 特に, 任意の 2×2 -行列 A に対し, 上でのような φ_A は線形変換である. 実は, 以下の定理 0.2 で示すように, このことの逆も成り立つ.

L-0

補題 0.1 $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ が線形変換であることと, すべてのベクトル $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$ とスカラー $c, d \in \mathbb{R}$ に対して

$$(0.7) \quad \varphi(c\mathbf{a} + d\mathbf{b}) = c\varphi(\mathbf{a}) + d\varphi(\mathbf{b}) \quad \text{v-4}$$

が成り立つことは同値である.

証明. φ が線形変換なら, すべてのベクトル $\mathbf{a}, \mathbf{b} \in \mathbb{R}^2$ とスカラー $c, d \in \mathbb{R}$ に対して

$$\begin{aligned} \varphi(c\mathbf{a} + d\mathbf{b}) &= \varphi(c\mathbf{a}) + \varphi(d\mathbf{b}); && (0.5) \text{ による} \\ &= c\varphi(\mathbf{a}) + d\varphi(\mathbf{b}); && (0.6) \text{ による} \end{aligned}$$

だから, (0.7) が成り立つ.

逆に, (0.7) が成り立つとすると, (0.7) で $c = 1, d = 1$ とすると, (0.5) が成り立つことがわかり, $d = 0$ とすると (0.6) が成り立つことがわかる. \square (補題 0.1)

Th-0

定理 0.2 すべての線形変換 $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ に対し, 2×2 -行列 A で, $\varphi = \varphi_A$ となるものがただ 1 つ存在する.

証明. $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ を線形変換として, $\varphi\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix}$, $\varphi\left(\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix}$ とする.
このとき $A = \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}$ が求めるようなものになっている: 任意の $\mathbf{a} = \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ に対し,

$$\begin{aligned} \varphi(\mathbf{a}) &= \varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \varphi\left(u \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} + v \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) \\ &= u\varphi\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right) + v\varphi\left(\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) && \text{; 補題 0.1 による} \\ &= u \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix} + v \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix} && \text{; } \begin{bmatrix} a \\ c \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} b \\ d \end{bmatrix} \text{ の定義による} \\ &= \begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix} \cdot \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix} = A \cdot \mathbf{a} = \varphi_A(\mathbf{a}) \end{aligned}$$

となるから, $\varphi = \varphi_A$ である. このような A の存在が一意であることは, $A \neq A'$ なら $\varphi_A \neq \varphi_{A'}$ となることから明らかである. □ (定理 0.2)

線型変換 φ に対し, $\varphi = \varphi_A$ となるような行列 A を φ の表現行列とよぶことにする. 上の定理の証明を用いると線型変換の表現行列が求められる.

ex-0-0

例 0.2 例 0.1, (1) での ρ_θ が線型変換になることは容易に確かめられる.

$$\rho_\theta\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{bmatrix}, \rho_\theta\left(\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} -\sin \theta \\ \cos \theta \end{bmatrix}$$

だから,

$$A_\theta = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}$$

とすると, この A_θ は ρ_θ の表現行列になる. つまり, $\rho_\theta = \varphi_{A_\theta}$ である.

補題 0.3 $\varphi: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ を線形変換とするとき, $\mathbf{0} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$ として, $\varphi(\mathbf{0}) = \mathbf{0}$ である.

証明. (0.3) により, $\varphi(\mathbf{0}) = \varphi(0\mathbf{0}) = 0\varphi(\mathbf{0}) = \mathbf{0}$ である. □ (補題 0.3)

ex-1

例 0.3 $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ なら, 例 0.1, (2) での t_b は $t_b(\mathbf{0}) = \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ だから, 線形変換ではない.

逆に, $\varphi(\mathbf{0}) = \mathbf{0}$ だったとしても φ が線形変換になるとは限らない:

例 0.4 $\varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} u \\ v^2 \end{bmatrix}$ で φ を定義すると, $\varphi(0) = 0$ だが, たとえば,

$\varphi\left(2\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = \varphi\left(\begin{bmatrix} 2 \\ 2 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} 2 \\ 4 \end{bmatrix}$ だが, $2\varphi\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = 2\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 2 \end{bmatrix}$ だから, φ は (0.6) を満たさない. したがって, φ は線形変換ではない.

線型変換の例を更に挙げておく.

(0) ゼロ写像 (すべての $\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ に対し $\varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$) は線形変換である (表現行列: 零行列 $\begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$).

(1) 恒等変換 (何も動かさない変換), つまりすべての $\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ に対し, $\varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$ は線形変換である. (表現行列: 単位行列 $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$).

(2) 鏡像変換 (reflection). (a) x 軸を境界とする鏡像 ($\varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} u \\ -v \end{bmatrix}$, 表現行列: $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}$).

(b) y 軸を境界とする鏡像 ($\varphi\left(\begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} -u \\ v \end{bmatrix}$, 表現行列: $\begin{bmatrix} -1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$).

(c) 直線 $y = x$ 境界とする鏡像 ($\varphi\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$, $\varphi\left(\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$, 表現行列: $\begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}$) . etc.

(3) ねじれ (shear).

$\varphi\left(\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$, $\varphi\left(\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}\right) = \begin{bmatrix} k \\ 1 \end{bmatrix}$, 表現行列: $\begin{bmatrix} 1 & k \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$).

(4) 拡大 / 縮小 (scaling).

(a) x 軸方向への比率 $r > 0$ での拡大縮小 (表現行列: $\begin{bmatrix} r & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$)

(b) y 軸方向への比率 $r > 0$ での拡大縮小 (表現行列: $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & r \end{bmatrix}$)

(5) 射影 (projection).

(a) x 軸への射影 (表現行列: $\begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$)

(b) y 軸への射影 (表現行列: $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}$)